

古民家の野外博物館

# 日本民家園だより

昭和63年度第2号

〈通号第13号〉

発行 63.8.1

川崎市立日本民家園

川崎市多摩区枳形7-1-1

電話(044)922-2180-1

印刷(資)永申社

## 生産信仰の対象、蚕影山祠堂

### ● 蚕影山祠堂

- 宮殿 一間社，春日造風  
こけら葺き
- 覆堂 正面入母屋・背面寄棟造り，茅葺き，向拝付き
- 平面積 宮殿 0.63㎡  
覆堂 12.42㎡
- 旧所在地 川崎市麻生区岡上217  
東光院境内
- 昭和44年9月 岡上養蚕講中より川崎市に寄贈
- 昭和45年3月 移築復原工事完了



蚕影山祠堂

### ◆ 覆堂のなかに宮殿

この建物は、お蚕の神さま「蚕影山大権現（本地仏は馬鳴菩薩）」を祀った宮殿と、これを覆う覆堂とで祠堂となっています。宮殿は高さ2.2mの小型なものですが、堂背面に打ちつけてある棟札により文久3年（1863）につくられ、覆堂は前面にある石の手洗鉢の銘などの資料により元治2年（1865）にたてられたものと推定されています。

宮殿は、ほぼ春日造りのお社で基壇をはじめとして細部の部材や壁面・脇障子など各所にレリーフのように彫刻が施されており、いかにも江戸後期の建築らしい見事なものです。なかでも両側面の床上・床下壁面の四つの彫刻は蚕影

山大権現金色姫の四つの受難をあらわしており、①獅子の谷に②鷹の山に捨てられ③舟で流され④庭に生埋めされるという物語りが描かれています。さらに他の部分にもお蚕にまつわる彫刻があり、生産信仰との結びつきがよくうかがわれる建築で、民俗的に貴重なものです。

なお、建物と同時に寄贈された<sup>ノボリ</sup>職二流は毎年3月21日、岡上時代と同じ日にあげています。

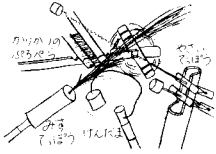
### ◆ みどころ

- 宮殿全体の江戸後期らしい建築技術
- 各種の彫刻，なかでも前記の①～④は蚕の四回の休眠をあらわし，シジ，タカ，フネ，ニワといわれています

## 催し物へのお誘い

8月から11月にかけては、“夏休み”そして“文化の秋”。日本民家園では、昔の生活を楽しく体験できる催し物を準備して、皆様のご来園をお待ちしています。

### ◆ 体験学習 一郷土玩具作りー <8/21(日)>



当日ご入園された方に、水鉄砲・ケン玉などの郷土玩具作りを体験していただけます。手作りの玩具は、来園の素適なお土産になるのでは……。会場は旧作家住宅前です。

### ◀年中行事の展示▶

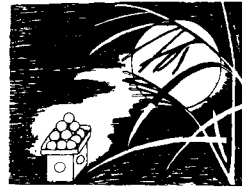
#### ◆ 盆行事 <8月中>

オショウロウダナなど、川崎周辺のお盆の様子を展示。

### ◆ 体験学習 一石臼で粉を引くー <9/25(日)>

石臼を使ってお米を粉にし、その粉で十五夜のお団子を作ります。手作りのお団子はおいしいですよ！

定員は20組の親子。教材費、1人あたり300円。申込みは、9/11(日)午前9時から電話で先着順。



#### ◆ 十五夜

<9月中>

お団子をはじめ里芋・すすき・萩をお供えます。

### ◆ 日本民家園文化財ボランティア講座

<10/1, 15, 29, 11/12(各土)>

日本民家史を中心としたボランティア育成講座です。定員20名。申込みは、9/18(日)午前9時から電話で先着順。

### ◆ 文化の日 ー無料開園ー

自由参加行事 ーワラで民具を作ろうー <11/3(木)>

文化の日は、年に1度の無料開園日です。さわやかな秋の一日、昔なつかしい生活と触れあってみてはいかがでしょうか。

### ◆ 刈りあげ <10月中>

「刈りあげ」とは、稲の収穫をお祝いする行事です。

新しく刈り取った稲・きれいに洗った鎌・お粥などを神様にお供えし、神様と道具にその年の収穫を感謝します。

## (園の動き)



ホラッ、着てごらん

### ◆ 『日本民家園まつり』開催 <5/1~31>

毎年好評の民俗芸能公演をはじめとし、民具着用体験、古民家みどころ紹介、民具手づくりコーナー、こども写生会、スケッチ展など多くの催し物が行なわれました。

民俗芸能公演は、残念ながら雨に降られてしまいましたが、その中でも熱心に舞台を見続ける人も少なくはなく、出演者の方々も、一層心の籠った芸を披露して下さいました。

### ◆ 民家に学ぼう会開催 <6/12, 19>

2日間にわたり、延べ7名の方が古民家の基礎知識について学びました。

### ◆ 昭和63年度 第1回民家園協議会開催 <6/29>

### ◆ 旧佐々木家住宅 屋根茅の葺替え <7/2~20>

### ◆ 文化財映画会開催 <7/17, 24>

# 川崎市域のお盆行事

7月13日から15日あるいは16日まで先祖の靈魂を家へ迎えて祀る盆行事が各地で行なわれます。お盆は、仏教の「仏説盂蘭盆經」に基づくものとされていますが、仏教以前から日本では7月に祖霊を祀るマツリが行なわれていたともいわれています。

農村では、月遅れの8月に行なうことが多いようです。川崎市の多摩区や麻生区の農家でも8月13日から15日をお盆としています。13日に「オショログナ」をつくります。ひとだるを逆さにした上に戸板をのせ四隅に竹をたてるのは、中野島や菅にみられる例で、縄を竹に渡し稲穂やインゲン、

ニンジンなどをさげます。生田では棚には毎年新しい盆ゴザを敷き、周囲に掛軸をかけ、本尊様と先祖の位牌を祀ります。夕方、稲藁を燃して迎え火を焚きますが、大師河原では迎え火を焚く前に家中の者が入浴し身を清めるという例や、病気にかからないようにとこの火を3回またぐ例もあります。ナスとキュウリの牛と馬を家の方に向け、さいの目に刻んだナスや水を供えてお迎えします。14日は「オタナマイリ」といって寺の住職がお経をあげに來たり、親戚や近所の家を訪ねます。「迎え火は早く送り火は遅く」といわれるように、15日の送り火は夜あるいは真夜中に焚きます。牛と馬の背にうどんやそばをかけ、墓の方に向けて先祖の霊を送ります。

民家園では、8月中、川崎のお盆行事の展示を旧北村家で行なっています。



盆棚 (旧北村家住宅「おく」)

## お盆のウマとウシ

お盆には、キュウリとナスで馬と牛を作り、ご先祖さまの霊をお迎えし、お送りします。最近ではマコモで作った馬が売られ、それを使う家が多くなりましたが、本来はキュウリとナスであることを大切にしたいものです。七夕の馬や小正月の道祖神祭りのワラ馬など、本来は民俗行事に使われるものが、郷土玩具として伝承されている例が多くあります。お盆の馬や牛は素朴な姿を失わないでほしいものです。



ナスの牛 キュウリの馬

道祖神の馬

七夕の馬

## 民具製作技術保存会だより

### ◆ご参加ください

8/21入園者サービスの日  
ワラで作る馬やぞうりなどご自由に民具づくりに参加できます。  
当日会場でお受けします。

### ◆のそいでみませんか

この日は参加はできません。  
ワラ細工 8/7,21,9/4,18,10/8,16,11/6  
竹細工 8/21, 9/18, 10/16,11/20  
はたおり 8/7,21,9/4,18,10/8,16,11/6  
※会場は旧作田家前庭です

# 園内の石造物案内(1) — 庚申塔 —

日本民家園と言えば、まず頭に浮かぶのは古い民家であることは、言うまでもありません。しかし、「いえ」と「くらし」の博物館を標榜している当園では、昔の人々の生活をしのばせる様々な民俗資料も併せて展示、保存しています。特にそれらの民俗資料の中でも、園路に沿ってポツリポツリと点在する石造物群は、昔の人々の精神世界を写し出す重要な展示物なのですが、大きな民家の存在に圧倒されて、つつい見落されてしまう傾向にあるようです。そこで今号より数回に分けて、庚申塔や道祖神を初めとする園内の石造物について、簡単な解説を加えていきたいと思います。まず第1回目の今回は庚申塔についてです。

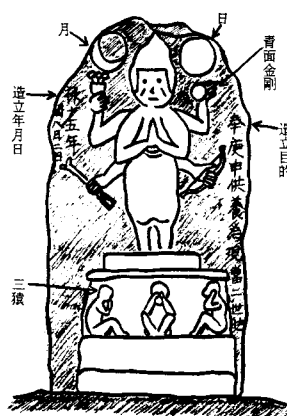
◆ **庚申信仰** 庚申信仰の起源は、中国の民間信仰である道教の三尸説サンシであると言われていています。三尸説とは、庚申の夜に、人間の体の中にある三匹の虫（三尸）が睡眠中に体をぬけ、天に昇って天帝にその人間の行なった悪事を告げるといふものです。天帝は、その報告によってその人間の生命を縮めてしまうと信じられていました。ですから、庚申の夜には眠らないように、人々は集まって、夜通し語り明かしました。この信仰は、奈良時代に日本の宮廷に伝わり、後に民衆に広まって、庚申の年などに塔を建てる風習が成立しました。

◆ **庚申塔** 庚申塔が造られ始めたのは、室町時代の終わり頃のようなのですが、現在最も一般的に見られるのは、江戸時代のものです。庚申塔には、大きく分けて文字塔（右上写真）と像塔（右下イラスト）があります。像塔には青面金剛や三猿を刻んだものが多いのですが、これは、庚申信仰が仏教や猿を神使とする山王信仰と結びついた結果です。

当園では、下図のように計4基の庚申塔が2ヶ所に配置してあります。



水車小屋付近の庚申塔



旧清宮家付近の庚申塔

## 編集後記

青葉が眩しい5月、宿場コーナーに新しく「旧佐地家の門」が移築復原公開され、連休には多くの入園者で賑わいました。

63年度の園内整備事業としては、昨年に解体・格納をした「旧岩澤家住宅」の復原工事（移築前の造成工事）が予定されています。やがて近い将来には、特長のある古民家として公開されることでしょうか。今後の日本民家園にご期待ください。

